バレイショ新品種「しまあかり」の春作栽培における最適な施肥量と株間

施肥量は窒素成分で14～21kg/10aが適し，株間は15～20cm（栽植株数6250～8333株/10a）にすることで増収

背景・目的

・青果用バレイショは，鹿児島県本土では出水地域および肝属地域を中心に，離島では徳之島，沖永良部を中心に栽培
・現在の主要品種はジャガイモシストセンチュウに感受性のため，安定した種苗確保が困難
・本県育成のシストセンチュウ抵抗性を有する新品種「しまあかり」は，本土春作を中心に普及開始
・施肥量，株間などの栽培特性について不明

成果の内容

・適する施肥量は，慣行栽培とほぼ同等の窒素成分量で14～21kg/10a
　高単価なL収量は施肥量が少ないほど多い

・適する株間は15～20cm（栽植株数6250～8333株/10a）
　株間は狭く密植ほど茎数・収穫個数増加 → 規格収量，L収量増加

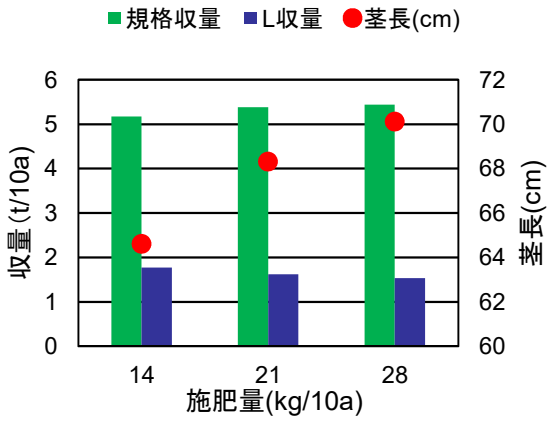

図　施肥量と茎長，収量の関係

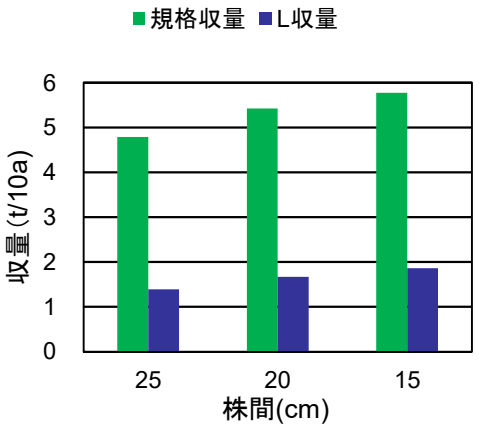

図　株間と規格収量の関係

注）施肥量は窒素成分量

期待される効果

○新品種「しまあかり」の安定生産
　収益向上

株間 (cm)	規格収量 (t/10a)	粗収益A (千円/10a)	種苗費B (千円/10a)	A-B (千円/10a)
15	5.8	1,100	43	1,060
25	4.8	910	26	890
差	1.0	190	17	170

○普及対象・範囲
　本土地域の「しまあかり」栽培農家

鹿児島県農業開発総合センター
大隅支場園芸作物研究室

（R04）